

香川生物 (Kagawa Seibutsu) (20) : 1-5, 1993.

香川県内のアブラコウモリ *Pipistrellus abramus* の水平分布

森井隆三

〒762 香川県坂出市文京町2-1-5 香川県立坂出高等学校

Horizontal Distribution of *Pipistrellus abramus* in Kagawa Prefecture, Japan

Ryūzō Morii, Sakaide Senior High School, Sakaide 762, Japan

はじめに

香川県内における既報のアブラコウモリ *Pipistrellus abramus* の分布については、森井(1992)が整理した。しかし、その後香川県内で今までに報告されていない地域におけるアブラコウモリの分布資料が蓄積したので報告する。

調査方法

1975年から1992年にかけて香川県内のアブラコウモリの分布状況について調べた。調査は、①夕方アブラコウモリが飛び出すのを確認すること、②夕方及び朝方にその地域にアブラコウモリが飛んでいるのを確認すること、③人家の周辺に糞が落ちているのを確認すること、および④地域の住民に対して聞き込みやアンケートに答えてもらうことで行った。これらの方法による調査地点は県内554箇所であった。生息が確認できた建物の一部では、建物のどのような所に生息しているか、どれくらいの個体数が夕方飛び出すかについても調べた。

結果

森井(1992)を除いて、生息が確認された市町を図1に示した。図中の数字は結果の市町の数字にあわせている。今回調査した市町の属島は、市町の番号とアルファベットで示している。香川県内の以下の市町でアブラコウモリの生息が確認された。

1 高松市

多肥下町, 天神前, 一宮町, 亀岡町, 西浜新町, 松島町, 香西南町, 香西町, 香西本町, 上天神町, 栗林町, 丸の内, 南新町, 鶴市町, 朝日町, 錦町, 飯田町, 御厩町, 岡本町, 中間町, 郷東町, 玉藻町, 鬼無町, 木太町, 常磐町, 多賀町, 藤塚町, 太田上町, 瀬戸内町, 岡本町, 高松町, 昭和町, 上之町, 三条町, 中央町, 出作町, 松並町, 屋島西町, 新田町, 前田東町, 亀田町, 春日町, 瓦町, 今里町, 仏生山町, 田村町, 生島町, 伏石町, 福岡町, 上福岡町, 西宝町, 幸町, 田町, 扇町, 女木町(1a), 男木町(1b)。

2 丸亀市

城南町, 中府町, 大手町, 土居町, 本町, 原田町, 三条町, 飯野町, 六番丁, 柞原町, 西本町, 金倉町, 本島町(2a)(福田, 小坂, 竹島, 笠島, 泊, 牛島), 広島町(2c)(江ノ浦, 甲路, 茂浦, 釜ノ越, 手島(2d), 小手島(2e))。

3 坂出市

本町, 川津町, 沙弥町, 白金町, 寿町, 駒止町, 元町, 新浜町, 築港町, 大屋富町, 王越町, 林田町, 江尻町, 御供所町, 瀬居町, 小山町, 福江町, 横津町, 川崎町, 与島町(3a), 岩黒島(3c), 櫃石島(3d)。

4 善通寺市

文京町, 中村町, 弘田町, 木徳町, 与北町。

5 観音寺市

高屋町, 天神町, 上市町, 新田町, 室本町, 八幡町, 中新町, 植田町, 昭和町, 茂西町, 吉

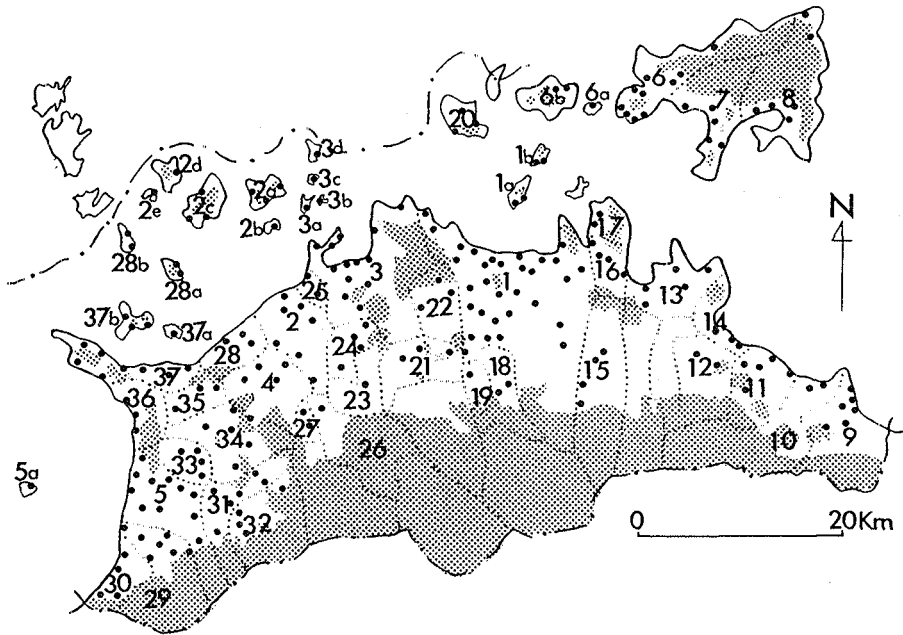


図 1. 香川県内のアブラコウモリの分布

- : 生息が確認できた地点
- 数字 : 本文中の市町番号
- : 市町の境界線
- : 標高100m以上の山地

岡町, 池之尻町, 栗井町, 瀬戸町, 木之郷町, 流岡町, 中田井町, 柳町, 明星町, 伊吹町, 観音寺町, 出作町, 港町, 仮屋町。

小豆郡

6 土庄町-湊崎, 上庄, 天神, 黒岩, 千軒, 小瀬, 柳, 大木戸, 鹿島, 小海, 小豊島(6a), 豊島(6b), 7 池田町-蒲生, 蒲野, 八幡, 池田, 二面, 8 内海町-苗羽, 草壁, 安田, 福田, 西村, 吉田。

大川郡

9 引田町-引田, 逃田, 小海, 塩屋, 10 白鳥町-西山, 松原, 11 大内町-横内, 中山, 落合, 三本松, 水主, 12 大川町-富田中, 田面, 13 志度町-志度, 鴨庄, 小田, 間川, 14 津田町-津田, 西山。

木田郡

15 三木町-氷上, 平木, 池戸, 田中, 16 牟礼町-原, 八栗, 牟礼, 17 庵治町-中央, 才田。

香川郡

18 香川町-川東下, 川東上, 19 香南町-横井, 20 直島町-文教区, 積浦, 本村, 宮の浦, 櫛山。

綾歌郡

21 綾南町-畑田, 北, 滝宮, 羽床, 22 国分寺町-端岡, 柏原, 福家, 23 綾歌町-栗熊, 24 飯山町-川原, 樋の口, 東坂元, 下法軍寺, 25 宇多津町-津の郷。

仲多度郡

26 満濃町-四条, 27 琴平町-五条, 下櫛梨, 上櫛梨, 苗田, 榎井, 川東, 28 多度津町-道福寺, 見立, 山階, 堀江, 高見島(28a), 佐柳島(28b)。

三豊郡

29 大野原町-中姫, 花稲, 萩原, 宮ノ下, 福田原, 五郷井関, 丸井, 豆塚, 青岡, 辻, 30 豊浜町-西原, 堀切, 東浜, 須賀, 岡, 姫浜, 関谷, 和田浜, 箕浦, 白坂下, 31 山本町-神田, 大野, 財田西, 西光寺, 辻, 大辻, 上河内, 下河内, 32 財田町-財田中, 我久, 33 豊中町-本山, 岡本, 比地大, 六ノ松, 上高野, 田井, 34 高瀬町-下麻, 比地, 新名, 二宮, 比地中, 羽方, 佐股, 下勝間, 上高瀬, 上勝間, 35 三野町-大見, 吉津, 下高瀬, 津ノ前, 36 仁尾町-古江,

仁尾, 峠, 境目, 37詫間町一箱, 積, 神田, 新浜, 大浜, 鴨峠, 名部戸, 田井, 的場, 水出, 高谷, 須田, 生里, 松崎, 志々島(37a), 栗島(37b)。

しかし, 寒川町, 長尾町, 塩江町, 綾上町, 琴南町, および仲南町の6町では生息が確認されなかった。また, 県内の島嶼部として調査した島(小豆島-6, 7, 8, 小豊島-6a, 豊島-6b, 直島-20, 女木島-1a, 男木島-1b, 与島-3a, 小与島-3b, 岩黒島-3c, 櫃石島-3d, 本島-2a, 牛島-2b, 広島-2c, 手島-2d, 小手島-2e, 高見島-28a, 佐柳島-28b, 志々島-37a, 栗島-

37b, 伊吹島-5a)のすべてで, アブラコウモリの生息が確認された。

生息が確認できた建物, 生息している状況および場所(市町)について表1に示した。生息が確認できた建物としては, 鉄筋コンクリートのビル(調査地点番号27), モルタル家屋(調査地点番号2), 木造家屋(調査地点番号5)およびブロックで造った家屋(調査地点番号33)等であった。

建物の1箇所から出てくる個体数(1コロニーの大きさ)が確認できたものについては個体

表1. アブラコウモリの生息していた建物, 生息している状況および場所

建物	状	況	場所(市町)
木造	土壁とその外の板のすき間		1階 観音寺市柞田町
"	"		2階 "
"	"		2階 高松市花ノ宮町
鉄筋	建設後約5年	天井	1階 仲多度郡琴平町
"	"	絵画の額の裏	1階 "
"	シャッターのすき間		2階 高松市川島東町
"	ステージのどん張のひだ		1階 観音寺市観音寺町
モルタル	建設後約5年	壁と屋根のすき間	2階 丸亀市原田町
"	壁と屋根のすき間		2階 高松市下笠居町
"	"		2階 坂出市福江町
ブロック	スレートの屋根とブロックの間		1階 三豊郡豊中町

表2. 1コロニーの個体数, 調査年月日および場所

1コロニーの個体数	調査年月日	場所(市町)
11	1980. 8. 17	丸亀市原田町
12	1979. 7. 21	観音寺市観音寺町
13	1977. 7. 30	三豊郡仁尾町
15	1974. 10. 16	観音寺市栗井町
22	1977. 6. 27	観音寺市柞田町
34	1987. 8. 21	高松市下笠居町
69	1985. 9. 10	仲多度郡琴平町
74	1987. 8. 6	坂出市福江町
平均	31.3	

数, 調査した時期および場所(市町)を表2に示している。1箇所から出てきた個体数は11~74頭で, 平均31.3頭であった。

考 察

香川県内のアブラコウモリの分布は標高100m以内の平野部に限って見られた。特に, 香川県で多くのアブラコウモリが観察されたのは, 高松市の春日川・御坊川下流, 観音寺市の財田川下流等であった。この地域には, 夏場にはセスジユスリカ *Tendipes dorsalis* の蚊柱が多くできる。

阿讃山脈に近い地域, 洞窟および隧道では確認されなかった。日本での平野部以外での記録としては, 長野県針ノ木岳大沢小屋(標高約1,600m)(今泉, 1960), 高知県香美郡土佐山田町龍洞(今泉, 1960)長崎県対馬上県郡上町笠山洞窟(吉行, 1970)および徳島県木屋平(標高約1,000m)(阿部ら, 1971)等がある。Funakoshi & Uchida (1978)は, アブラコウモリの餌として, Lepidoptera, Coleoptera, Diptera, および Hemiptera を挙げているが, 県内の山間部でアブラコウモリの分布が観察できなかったことは, 餌となるこれら昆虫の分布と関係があるのかもしれない。今後の詳細な調査が待たれる。

アブラコウモリの島嶼部における分布は, 調査した人の住んでいる20島のすべての島で生息が確認できた(図1)。日本には約555の島がある。そのうち, 現在までにアブラコウモリの生息が報告されているのは, 吉岐(今泉, 1960; 山口, 1977; 山口・兼松, 1989), 奄美大島(今泉, 1960), 佐渡(今泉, 1970), 粟島(新潟県)(今泉, 1970), 対馬(吉行, 1970; 浦田・山口, 1976), 中通島(山口・兼松, 1989), 奈留島(山口・兼松, 1989), および崎戸島(山口・兼松, 1989)である。筆者の調査によると, 高知県の沖ノ島, 徳島県の伊島, 岡山県の真鍋島, 北木島および白石島においてもアブラコウモリの生息が確認されている(森井, 未発表)。これらのことから, 人の住む島にはアブラコウモリは生息しているものと思われる。しかし, 調査が十分になされていないために記録として出てい

ないのではないかと考えられる。

生息が確認された建物としては, 古い木造家屋から建てて5年位の新しい鉄筋コンクリート製のビルまでいろいろであった(表1)。このことから, アブラコウモリはかなり分封をしているのではないと思われる。内田(1966)は, この種は1年中同一家屋にすみ, 家族構造的性格が強いという。また, 反面には分封といった現象も起こりうるのではないかという疑念もたれるとしている。

コロニーの大きさは, 11頭から74頭までであった(表2)。内田(1966)は, 同一の建物の2箇所5月から8月にかけて調査をし, 28頭から56頭, 13頭から43頭を記録している。この2か所では, 8月の巣立以後に個体数が増えている。また, 別の場所で8月から9月に調査をして, 38頭を, 7月から8月にかけてさらに別の場所で110頭を記録している。谷口ら(1990)は, 同一場所で3年間(1987~1989)調査し, 年によって, 165, 250, 28頭を記録し, また場所の違いによって1~250頭を記録している。今回の調査においても, 場所によって個体数はちがっていた(表2)。これらのことは, アブラコウモリの一つのコロニーの個体数は生息場所, 時期および年等によって変化するものと考えられる。そして, この変化は, アブラコウモリの分封を示唆しているように思われる。

摘 要

1975年から1992年にかけて, 香川県内のアブラコウモリの分布について調査した。アブラコウモリは香川県内の平野部と島嶼部に分布していた。アブラコウモリは, 古い木造家屋から, 建てて5年という鉄筋やモルタルの家屋にも生息していることが確認された。一つのコロニーの大きさとしては, 11頭から74頭が確認され, 平均31.3頭であった。

謝 辞

この調査をまとめるにあたり, 適切な指導と助言をいただいた香川大学教育学部教授金子之史先生に感謝いたします。

引用文献

- 阿部近一・武内恵行・山崎孝信. 1971. 剣山とその周辺の哺乳類その他. 剣山県民の森:129-133. 徳島県.
- Funakoshi, K. and T. A. Uchida 1978. Studies on the physiological and ecological adaptation of temperate insectivorous bats. III. Annual activity of the Japanese house-dwelling bat, *Pipistrellus abramus*. *J. Fac. Agr., Kyushu Univ.*, 23: 95-115.
- 今泉吉典. 1960. 原色日本哺乳類図鑑. 保育社, 大阪, pp. 362.
- . 1970. 日本哺乳動物図説 上巻・新思潮社, 東京, pp. 350.
- 森井隆三. 1992. 四国に棲息する翼手類の水平分布. 香川生物 (19): 21-36.
- 谷口勝直・峯岸秀雄・木下あけみ. 1990. アブラコウモリ生態資料. 川崎市青少年科学館紀要 (1): 23-28.
- 内田照章. 1966. 日本の哺乳類 (5) 翼手目イエコウモリ属. 哺乳類科学 (11): 5-23.
- 浦田明夫・山口鉄男. 対馬の哺乳類. 対馬の生物: 155-166.
- 山口鉄男. 1977. 杵岐の哺乳類. 杵岐の生物: 233-237.
- 山口鉄男・兼松二郎. 1989. 長崎県の哺乳類. 長崎県の生物: 87-94.
- 吉行瑞子. 1970. 対馬の翼手類. 国立科学博物館専報 (3): 177-184.